

令和元年度
島根県学力調査
結果概要

令和2年1月24日（金）
島根県教育委員会

I. 実施概要

1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握するとともに、全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の教育施策の充実と学校における指導の一層の改善に資する。

2 実施日

令和元年 12 月 10 日(火)・11 日(水)

3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 202 校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 98 校

義務教育学校 1 校

（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R1.9.1 現在)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第 5 学年	実施人数	5,315	5,311		5,311	5,725
		割合	92.8%	92.8%		92.8%	
	第 6 学年	実施人数	5,552	5,556		5,559	5,888
		割合	94.3%	94.4%		94.4%	
中学校	第 1 学年	実施人数	5,439	5,441	5,441	5,441	5,807
		割合	93.7%	93.7%	93.7%	93.7%	
	第 2 学年	実施人数	5,035	5,037	5,035	5,042	5,457
		割合	92.3%	92.3%	92.3%	92.4%	

5 県調査の考え方・特徴

（１）全国調査と県調査をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

① 全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、島根県学力調査（以下「県調査」という。）で検証するというPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。

② 今年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

（２）教科に関する調査

以前は委託業者の標準問題を使用していたが、平成 27 年度の調査より島根県独自のオリジナル問題を作成。全国調査等で明らかとなった課題の改善状況を検証することをねらいとしている。

(3) 生活・学習に関する意識調査

全国調査結果を踏まえた取組の検証という観点から、全国調査の質問項目や過去の県調査と同じ質問項目を設定。

(4) 課題をとらえやすい帳票と分析ツールの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいように各種データの表示を工夫するとともに、学力と意識のクロス分析や結果チャートが簡単に作成できるような分析ツールを提供。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できる「フォローアッププリント」を提供。

6 用 語

- 「正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）の県平均。
- 「観 点」 指導や評価のために、児童生徒が身に付けた力を分析的に捉える視点。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つ。
- 「領 域」 各教科の学習内容を系統的に示したもの。算数であれば「数と計算」「図形」など。

7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

(1) 令和元年度島根県学力調査 結果概要

- I. 実施概要
- II. 教科に関する調査の結果
- III. 意識調査の結果概要
- IV. 今後の対応

(2) 令和元年度島根県学力調査 教科別調査結果概要（資料1）

(3) 令和元年度島根県学力調査 教科に関する調査と主な生活・学習に関する意識調査のクロス分析結果（資料2）

(4) 令和元年度島根県学力調査 資料編

- ① 教科に関する設問別調査結果一覧（資料3）
- ② 生活・学習に関する意識調査結果一覧（資料4）

Ⅱ. 教科に関する調査の結果 【小学校国語】（成果○ 課題◆）

1 全体的な結果の概要

- 「書くこと」において、読み手を意識した効果的な表現の工夫をとらえることができています。
- 漢字の読みについては、すべての問題において高正答率となっており、概ね定着している。
- ◆「読むこと」において、他の領域と比較して著しく正答率が低い。
- ◆複数の文章を比較して読んだり、図やグラフなどを対応させて読んだりすることに引き続き課題がある。
- ◆漢字の書きについては、同音異義の漢字について、文の中で正しい意味をとらえて使うことに課題がある。
- ◆文の構成について、主語・述語の関係の理解には定着がみられるが、修飾・被修飾の関係の理解には引き続き課題がある。

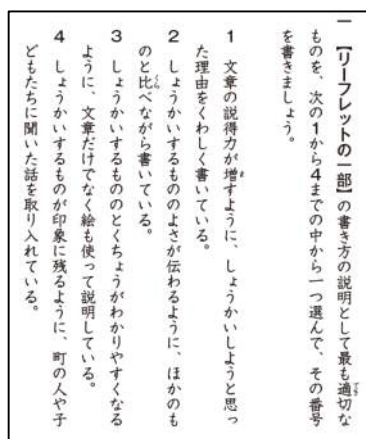
2 全国学力・学習状況調査等における課題

- ・「書くこと」において、目的や意図に応じて情報を整理しながら、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。[小6・3二]
- ・「読むこと」において、複数の文章を比較して読んだり、図やグラフなどを対応させて読んだりする。[小6・4三]
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、同音異義の漢字を書く。[小5・1一4] [小6・1一4]
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、文の構成を理解する。 [小6・1三]

3 比較的できている問題例

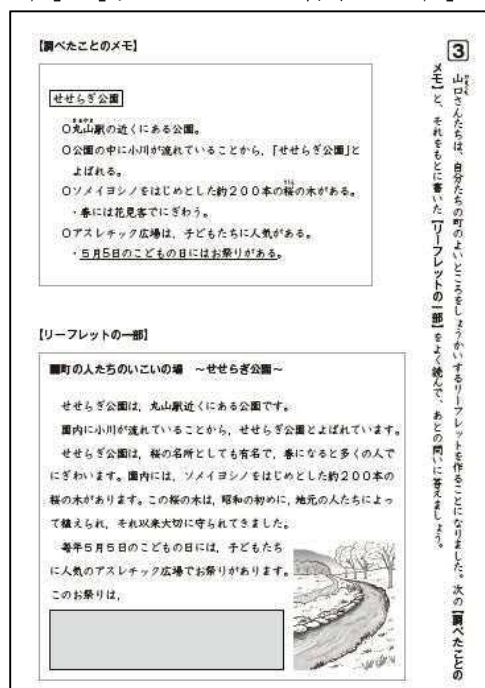
「書くこと」 読み手にわかりやすい表現の工夫をとらえることができています。

[小5・3一 正答率 83.3%] [小6・3一 正答率 82.7%]



【正答】

(小5・3一) 3



【中学校国語】

1 全体的な結果の概要

- 領域別にみると第1学年は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」について、概ね定着がみられる。第2学年は、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質」について概ね定着がみられる。
- ◆領域別にみると第1学年は、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」について課題が見られる。第2学年は、「書くこと」について課題が見られる。
- 話合いの話題や方向を踏まえて自分の考えをもつことについては改善が見られる。(第2学年)
- 文章の構成を考えて書くことについては改善傾向が見られる。(第1学年)
- ◆資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書くことについては、第1学年は改善傾向だが、第2学年は依然として課題である。
- ◆話合いの話題や方向(発言の役割)を捉えることについて課題が見られる。(第1学年)
- ◆文章の展開について自分の考えをまとめることについて課題が見られる。(第1学年)

2 全国学力・学習状況調査等における課題

- ・話合いの話題や方向を踏まえて自分の考えをもつ。 [中2・2二]
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ。
[中1・4二②] [中2・4三]
- ・資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書く。
[中1・3二] [中2・3二]
- ・漢字の書きと品詞を理解する。 [中1、中2・1一] [中2・1四]

3 比較的できている問題例

「読むこと」 知識と体験を関連付けて自分の考えをもつことについては、改善がみられる。
[中2・4三 正答率 78.2%]

(正答例)

山中さんを選んだ場合
きちんと当事者意識をもち、周りの意見に流されずに自分の考えをもって投票できるようにしたいです。

西本さんを選んだ場合
少数派の意見を見無視することなく、自分と意見の違う人の話もきちんと聞き、対等な存在として認めあうことだと思います。

4 次の「資料1」と「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「資料1」

「民主主義の決めごと」とは何か、と問われたとき、どのような答え方を想像しますか。多数決を思い浮かべた人は多いのではないのでしょうか。実際の選挙では多数決が決めごとですが、たしかにありそうです。たしかに、選挙は1票で決まるので、多数決が決めごとです。でも、選挙はただ単に多数決で決まるだけではありません。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。

「資料2」

「民主主義の決めごと」とは何か、と問われたとき、どのような答え方を想像しますか。多数決を思い浮かべた人は多いのではないのでしょうか。実際の選挙では多数決が決めごとですが、たしかにありそうです。たしかに、選挙は1票で決まるので、多数決が決めごとです。でも、選挙はただ単に多数決で決まるだけではありません。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。選挙は、国民の意見を反映させるための仕組みです。国民の意見は、選挙のたびに変わります。

「資料1」と「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 次の問いに答えなさい。

「資料1」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

2 次の問いに答えなさい。

「資料1」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

3 次の問いに答えなさい。

「資料1」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「資料2」を読んで、あとの問いに答えなさい。

4 課題のある問題例

「書くこと」 伝えたい事柄について、資料を参考にして書くことについては、課題がみられる。
[中2・3二 正答率 19.8% 無解答率 13.2%]

(正答例)

スギやヒノキでは、間もなく利用できるまでに成長したものが多く、若い木は極端に少なくなっています。今後も島根県の森林資源を維持していくために、森林や木材について関心をもち、森林づくりのボランティアなどにも参加しましょう。

【山本さんの記事】

島根県の森林と林業について
島根県は国土のうち78%が森林であることを知っていますか。この割合は、全国4位で、島根県は森林県であるといえるでしょう。
島根県の森林のうち、6%が国有林、94%は個人や企業などが持つ民有林です。個人が所有者である割合が70%程度で、それぞれが所有する森林は1haに満たないものが半数以上です。
それでは、民有林の変化を見てみましょう。

【資料1】民有林樹種別面積

2007年(10年前)

2017年(現在)

10年前と、総面積も樹種の割合も目立った変化はありません。森林資源の豊富な島根県の森林は、今後も同じような状態で持続していくと考えられます。

【太田さんがくれた資料】

民有林の平均樹齢構成(面積) 2017年(現在)

こんな資料を見つけたよ。
スギやヒノキは41年から45年育ったものが利用できるんだって。だから、島根県には、現在すでに利用できる木や、これから間もなく利用できる木がたくさんあるんだね。でも、将来も豊富にあると言えるのかな。

山本さんの記事では、山本さんが調べて書いた記事を持ち寄って「島根県の森林と林業」についての新聞を作ることになった。次は、山本さんの記事と、それを読んで「太田さんがくれた資料」です。これらを読んで、あとに問に答えよう。

5 今後の指導のポイント

(1) 「話すこと・聞くこと」

- ・「話すこと」に指導の重点が置かれがちだが、「聞くこと」の指導を工夫することで、話し手の意図を捉える力を育むことが大切である。
- ・ほかの人の話を聞きながら必要に応じて質問し、自分の考えと比べて共通点や相違点を整理すること、話の要点がどのような事実に基づいているかを考えること等を習慣付け、話し合い学習の充実を図る。

(2) 「書くこと」

- ・自分の考えの根拠として用いる情報を精査し、必要があれば取材を繰り返したり、自分の考えとどのような関係があるのか分かるように記述したりする指導を工夫する。
- ・文章構成や表現の仕方など、評価の視点をもって互いの文章を交流し合い、読み手の助言を参考に自分の文章を客観的に捉え、よりよいものに改善していく学習の充実を図る。

(3) 「読むこと」

- ・目的意識をもたせた学習課題を設定し、単元を通した課題解決的な学習の展開を工夫する。
- ・発展的に他の文学的な作品を読み広げたり、様々なジャンルの図書資料から情報を得たりして、日常の読書活動につながる学習を工夫する。
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化等について具体的な読み解き方を学ぶとともに、自分の解釈を文章表現や経験などから根拠を示して説明したり、互いの解釈を比較したりする活動の充実を図る。

【小学校算数】

1 全体的な結果の概要

- 「小数＋小数」の位をそろえる計算、加法と乗法の混合した整数と小数の計算など、これまで課題が見られた「数と計算」領域の問題について改善が見られる。
- ◆領域別に見ると、「図形」に関わる問題について課題がある。
- ◆小数倍の意味理解について、割合を表す数値と量を表す数値を混同してとらえたり、基準量より比較量が減少している場合は減法や除法になると誤判断したりする課題が依然として見られる。
- ◆既習事項を活用したり、資料の特徴や傾向を関連付けたりしながら方法や理由を記述する問題の正答率が9.3～25.5%と低く、第5学年では無解答率29.8%の問題もあり、課題がある。

2 全国学力・学習状況調査等における課題

- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。示された除法の式の意味理解。[小5・4]
- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。[小6・5]
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、その理由を記述する。[小6・14(2)]
- ・これまでの県学力調査における、小数の乗法及び除法の意味理解。
[小5・12(1)(2)] [小6・8(1)(2)]

3 比較的できている問題例

○小5、小6の「小数＋小数」の位をそろえる計算ができる。

- ・ $6.17 + 2$ [小5・1(1) 正答率 78.7%]
- ・ $1.45 + 3$ [小6・1(1) 正答率 82.2%]

※小5、小6の「小数＋小数」の位をそろえて計算する問題で、末尾を足してしまうという課題について改善が見られる。小6は、誤答の割合が5年時は18.4%だったが、6年時は9.0%となり、大きく改善している。

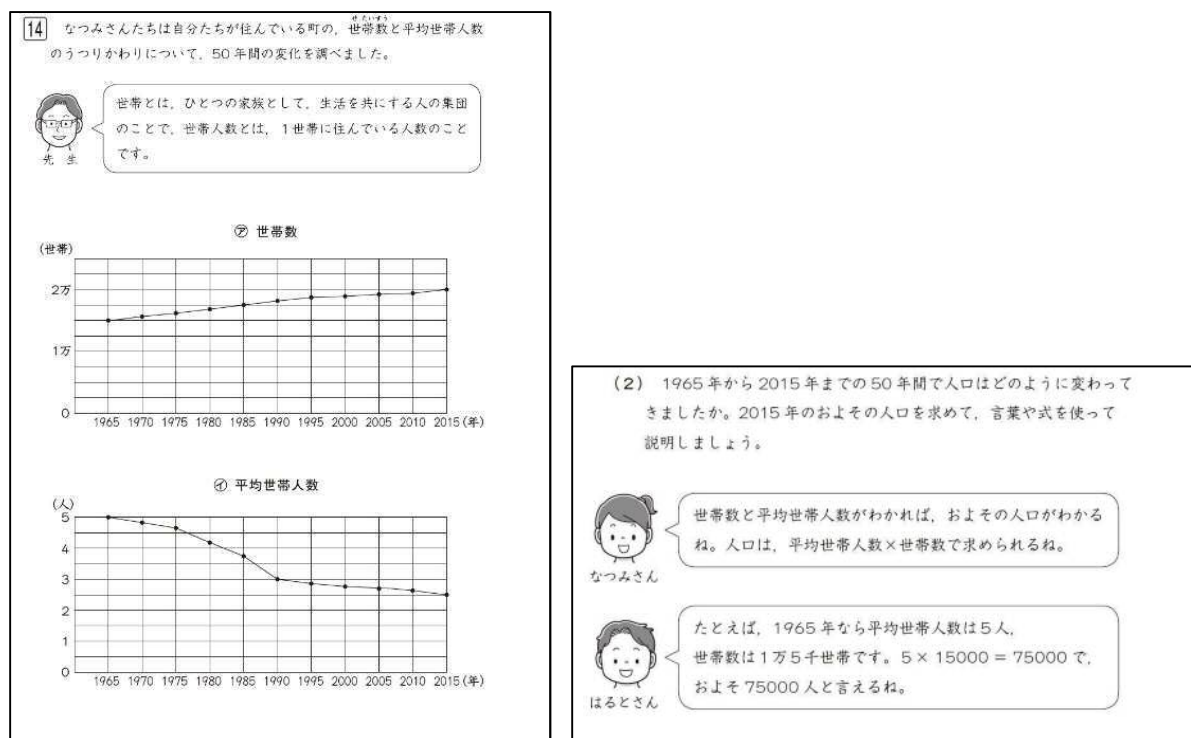
- ・小5 6.19 (16.9%) ・小6 1.48 (9.0%)

○加法と乗法の混合した整数と小数の計算について、課題は残るが、小6については改善が見られる。

- ・ $5 + 1.5 \times 6$ [小5・1(4) 正答率 52.3%]
- ・ $0.4 + 1.2 \times 3$ [小6・1(3) 正答率 64.2%]

4 課題のある問題例

◆小6の「与えられた資料を読み取り、人口の変化について必要な計算や言葉を使って、説明することができる」問題について、課題が見られる。 [小6・14(2) 正答率 13.2% 無解答率 19.8%]



5 今後の指導のポイント

- (1) 全国学力・学習状況調査や島根県学力調査の結果分析などをふまえ、児童の実態や自校の課題に基づいた重点的、継続的な指導を行う。
 - ・児童のいろいろな考え方を取り上げ、解釈する活動を取り入れるようにする。その際、それぞれの表現のよさに気付いたり、見方を変えて新しい解決方法を考えたりすることを大切にする。
- (2) 図形の学習では、自分から図形に働きかけることを大切にする。
 - ・図形の構成要素に着目して、構成できる図形を予想したり、構成できた根拠を考え説明したりすることで、定義（約束）や性質について理解を深める。
 - ・図形をかいいたり、切ったり、並べたり、作ったり展開したりするなどの数学的活動を取り入れていく。
- (3) 倍の意味を、図と関連付けて理解する指導を充実する。
 - ・割合を表す数値と量を表す数値とを混同している傾向が見られる。低学年から数量の関係（基準量、比較量、割合）を多様な図で適切に表す活動や、かかれた図から関係を読み取る活動を取り入れるようにする。
 - ・整数の乗法についての理解を基に、小数の乗法も数直線を使って整数の場合と同じように考えることで、小数倍についての理解を深めるようにする。
 - ・正答だけでなく誤答やつまずきを取り上げ、なぜそれではうまく解決できないのかを考えることも大切にする。
- (4) 「子どもの声でつくる算数授業づくり」を意識して、指導方法の改善を図る。
 - ・自分の考えを説明したり、ノートに記述したりする活動を適宜取り入れるようにする。その際、友達や教師が表現したことをそのまま復唱したり書き写したりするのではなく、自分の言葉で表現することを大切にして自分の考えを深めていけるようにする。

【中学校数学】

1 全体的な結果の概要

- 数や式の基本的な四則計算は定着している。
- 樹形図を用いて場合の数を求めることができる。
- ◆数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることに課題がある。
- ◆展開図や見取図を基に図形を考察したり、図形の各要素の関係を捉えたりすることに課題がある。
- ◆グラフから関数の式を求めることに課題がある。
- ◆資料の活用について、用語の意味理解やヒストグラムからデータの分布の傾向を読み取ることに課題がある。

2 全国学力・学習状況調査等における課題

- ・「関数」の領域において全国との差が大きい。[中1・11] [中2・5] [中2・6]
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。[中1・12]
- ・与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える。[中2・10]
- ・これまでの県学力調査における、図形についての計量の技能。[中1・4] [中2・7] [中2・8]

3 比較的にできている問題例

○指数の計算、正負の数の乗除の計算の技能が身に付いてきている。 [中1・1(3) 正答率 55.7%]
・ $18 \times (-12) \div (-2)^2$

○方程式の解の理解については改善傾向にある。

[中1・9 正答率 53.3%] [中2・3(1) 正答率 45.3%]

9 一次方程式 $3x-1=2x+2$ の左辺と右辺それぞれの x にいろいろな値を代入すると、次のような計算をすることができます。

$3x-1=2x+2$ について、

$x=1$ のとき、
(左辺) $= 3 \times 1 - 1 = 3 - 1 = 2$
(右辺) $= 2 \times 1 + 2 = 2 + 2 = 4$

$x=2$ のとき、
(左辺) $= 3 \times 2 - 1 = 6 - 1 = 5$
(右辺) $= 2 \times 2 + 2 = 4 + 2 = 6$

$x=3$ のとき、
(左辺) $= 3 \times 3 - 1 = 9 - 1 = 8$
(右辺) $= 2 \times 3 + 2 = 6 + 2 = 8$

$x=4$ のとき、
(左辺) $= 3 \times 4 - 1 = 12 - 1 = 11$
(右辺) $= 2 \times 4 + 2 = 8 + 2 = 10$

このとき、この方程式の解についていえることを、次のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア この方程式の解は3である。

イ この方程式の解は8である。

ウ この方程式の解は3と8である。

エ この方程式の解は3でも8でもない。

3 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 次の表は、二元一次方程式 $3x-2y=6$ を成り立たせる x, y の値の組です。
この二元一次方程式の解について正しく述べているものはどれですか。あとのアからエまでの中から1つ選びなさい。

x	0	1	2	3	4	5
y	-3	$-\frac{3}{2}$	0	$\frac{3}{2}$	3	$\frac{9}{2}$

ア 二元一次方程式 $3x-2y=6$ の解は、 $x=4, y=3$ の1組です。

イ 二元一次方程式 $3x-2y=6$ の解は、 $x=0, y=-3$ と $x=2, y=0$ と $x=4, y=3$ の3組です。

ウ 二元一次方程式 $3x-2y=6$ の解は、上の表の x, y の値の組の6組です。

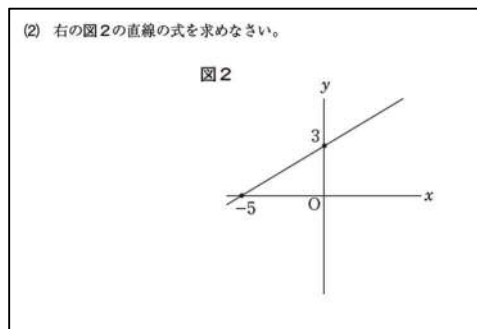
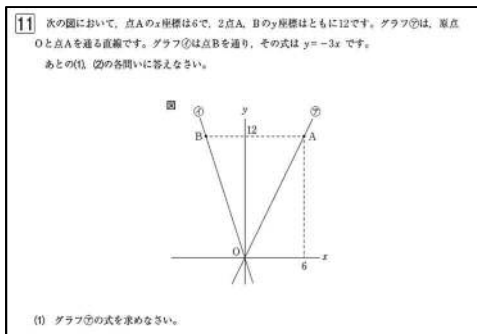
エ 二元一次方程式 $3x-2y=6$ の解は無数にあります。

4 課題のある問題例

◆グラフから関数の式を求めることに課題がある。

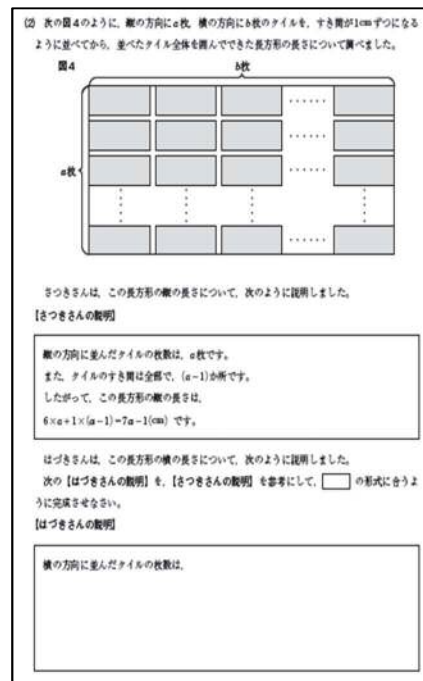
[中1・11 (1) 正答率 45.9% 無解答率 13.5%]

[中2・5 (2) 正答率 24.0% 無解答率 20.3%]



◆示された規則性のある場面について、計算の仕方を解釈し、例示を基に数学的に説明することに課題がある。

[中1・12 (2) 正答率 26.0% 無解答率 30.0%]



5 今後の指導のポイント

(1) 数と式

- ・事象の中にある数量やその関係を文字を用いた式を使って一般的に表現したり、形式的な処理を施して得られた結果やその過程から新たな関係を見いだしたりする学習場面を取り入れる。
- ・分数を含む文字式の加減など間違えやすい内容は、誤答などを取り上げながら繰り返し意味理解を図る。

(2) 図形

- ・図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察する力を養うために、立体の模型を観察や操作、実験などの活動を重視する。

(3) 関数

- ・表、式、グラフを相互に関連付けながら、グラフの特徴や変化の割合など、関数の理解を深めるとともにグラフを用いるよさを実感できるようにする。
- ・日常生活における問題から関数の関係を見だし、問題解決の方法を式やグラフを用いて説明する課題を取り入れる。

(4) 資料の活用

- ・代表値や相対度数などの必要性和意味を理解するために、代表値や相対度数を使うことのよさが実感できるデータを扱う活動を取り入れる。
- ・ヒストグラムなどを用いてデータの分布の傾向を読み取り、数学的な表現を用いて説明し伝え合う機会を設ける。

【中学校英語】

1 全体的な結果の概要

- 英文を聞いて、情報を正確に聞き取ったり、概要や要点を適切に聞き取ったりする力が概ね定着している。
- 英文を読んで、大切な部分などを正確に読み取る力が概ね定着している。
- ◆県平均正答率は、中学校第1学年が62%、中学校第2学年が53%とやや低い。
- ◆既習の語彙や文法事項等を活用することに引き続き課題があり、場面や状況に応じた英文を書く力に課題が見られる。
- ◆領域を統合して活用する力を見ると、英文を聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで英文を書くことに引き続き課題が見られ、無解答率も高い。

2 全国学力・学習状況調査等における課題

- ・既習の知識・技能を活用し、場面や状況に応じた英文を書く。
[中1・8] [中2・8]
 - ・複数の領域を統合して活用し、対話文の内容と質問を聞き取り、その場面や状況に応じた英文を書いたり、与えられた情報を整理し、まとまりのある英文を書いたりする。
[中1・4] [中2・4] [中1・9] [中2・9]
- ※「領域」とは、「聞くこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「読むこと」「書くこと」を示す。

3 比較的できている問題例

- 「読むこと」 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取る力が概ね定着している。
- ・英文の概要を表す適切な絵を選ぶ。

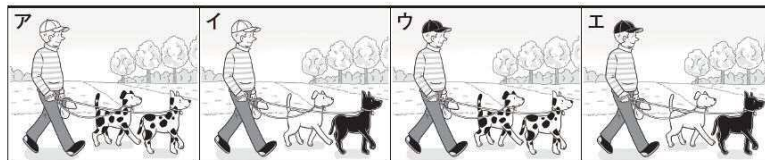
[中2・6(1) 正答率 89.1%]

中2

6 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

- (1) ジェーン (Jane) が自分の父について話しています。英文の内容に合う絵を、あとのアからエの中から1つ選びなさい。

Can you see that man with a black cap? He's James, my father. He is walking with two dogs. They are our pets. The black one is Becky, and the white one is John. I love them.



【正答】
エ

4 課題のある問題例

- ◆「書くこと」 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことに課題が見られる。
- ・対話の流れを踏まえて適切な英文を書く。

[中2・8(2) 正答率 6.8% 無解答率 33.9%]

- 8 次の(1)から(4)の対話の () に入る適切な英文を、それぞれ1文で書きなさい。
英文にはそれぞれ [] 内の語を使用すること。ただし、必要があれば [] 内の語を適切な形に変えてもかまいません。

(2) Mr. Hill: Yuka, try to read this book.

Yuka: Oh, it's an English book, right? (). [look]

Mr. Hill: No, it's easy. You can enjoy it.

【正答例】

It looks difficult (.)

- ◆「書くこと」 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことに課題が見られる。

・英文の内容を理解し、自分のことについて、まとまった内容で英文を書く。

[中1・9 正答率 11.9% 無解答率 17.3%]

【正答例】

[ベッキーの質問を日本語で書く]

(例) あなたは、誕生日に何がほしいですか。

[ベッキーの質問に対するあなた自身の答えとその理由を、主語と動詞を含む英文で書く]

(例) I want a computer.

I study English with it.

- 9 あなたに今日、留学生のベッキー (Becky) から電子メールが届きました。ベッキーの【メッセージ】を読んで、あとの質問に答えなさい。なお、あとの絵を参考にしてもかまいません。

【メッセージ】

Hi.
Today is your birthday.
What do you want for your birthday?
Becky

まず、ベッキーの質問を日本語で書きなさい。

次に、ベッキーの質問に対するあなた自身の答えとその理由を、主語と動詞を含む英文で書きなさい。文の数はいくつになってもかまいません。



5 今後の指導のポイント

- (1) 生徒が英語に触れる機会を充実する。

生徒の関心のある事柄や日常的な話題、社会的な話題について、まとまりのある英文で自分の考えや意見、気持ちなどを話したり書いたりする学習を日常的に行う。

- (2) 目的や場面、状況を明確にした言語活動を設定する。

聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして伝え合う領域統合型の言語活動を設ける。

- (3) 語彙や文法事項等の指導は言語活動と関連付け、活用しながら定着を図る。

語彙や文法事項の指導は、言語活動を通じて、生徒が思考・判断・表現することによって定着を図る。また、小学校で学習した語彙や表現などについては、中学校の言語活動において繰り返し活用し、生徒が話したり書いたりして表現できる段階まで確実に定着を図る。

Ⅲ. 意識調査の結果概要

1 全国学力・学習状況調査における課題と県学力調査の分析項目

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を意識的に設けている学校の割合が全国より下回っている。

- ① 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。〔小 55、中 58〕
- ② 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
〔小 54、中 57〕
- ③ 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。〔小 41、中 44〕

(2) 授業改善の状況

算数・数学の指導として、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は全国に比べ低い状況にある。

- ④ 算数、数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。〔小 56、中 59〕
- ⑤ 算数、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
〔小 57、中 60〕
- ⑥ 児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。〔小 35、中 38〕
- ⑦ 学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立っていると思う。〔小 16、中 19〕
- ⑧ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集めている。〔小 44、中 47〕
- ⑨ 「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。〔小 45、中 48〕

(3) 学習習慣

学校の授業時間以外に平日 1 時間以上勉強する中学 3 年生の割合について、依然として全国との差が大きい。

- ⑩ 学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強をしている時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）〔小 10、中 10〕
- ⑪ 家で、だれかに言われなくても自分から勉強している。〔小 18、中 21〕
- ⑫ 先生は効果的な家庭学習の仕方について指導してくれる。〔小 42、中 45〕
- ⑬ 先生はやってきた宿題をていねいにみて返してくれる。〔小 43、中 46〕

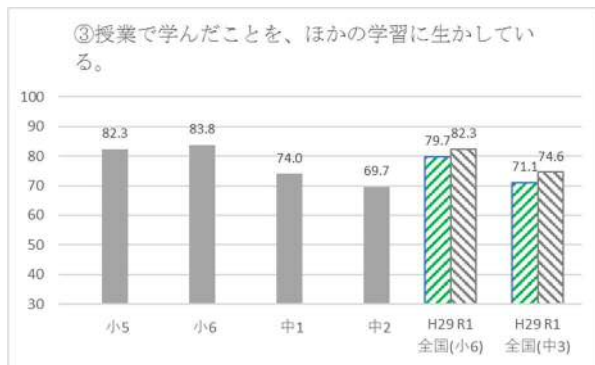
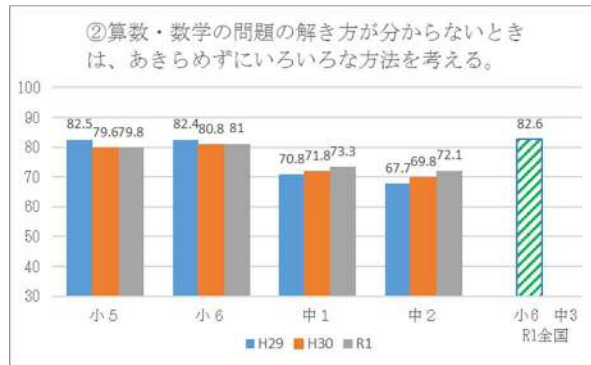
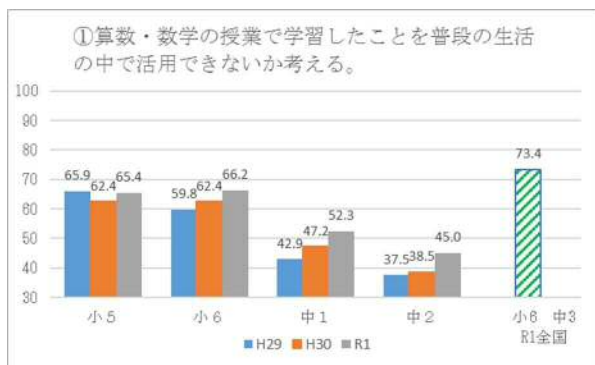
(4) その他

- ⑭ 普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。〔小 8、中 8〕
- ⑮ 普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。〔小 9、中 9〕

2 課題の改善状況

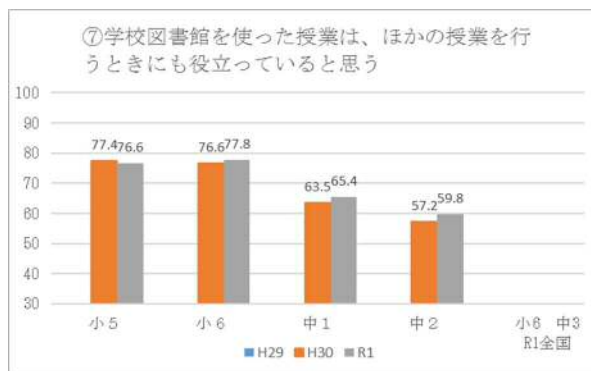
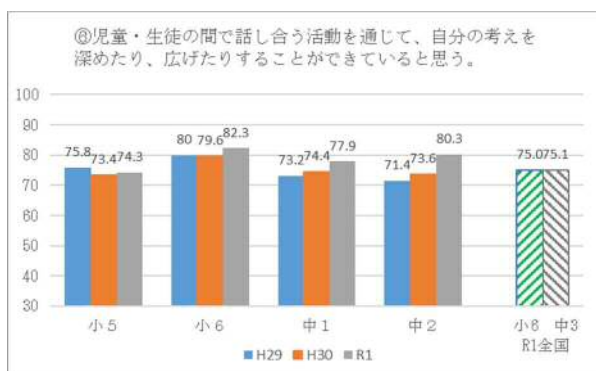
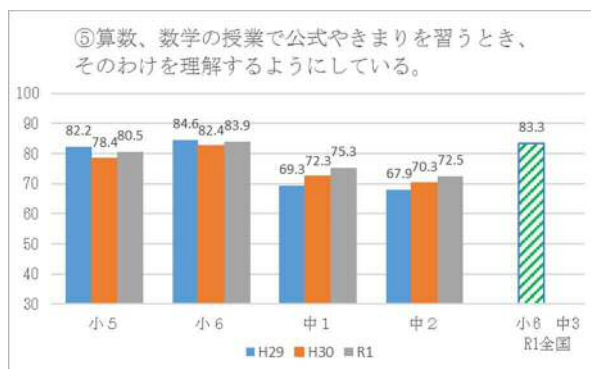
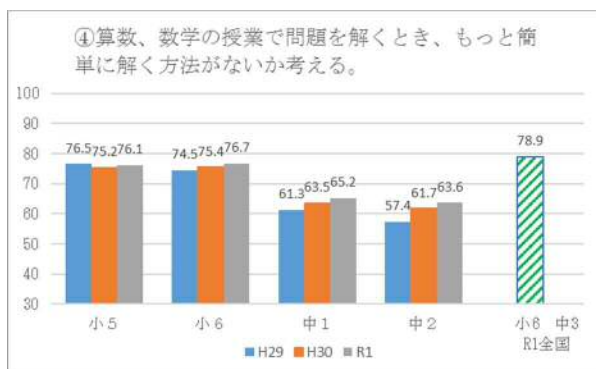
(1) 学習に対する関心・意欲・態度

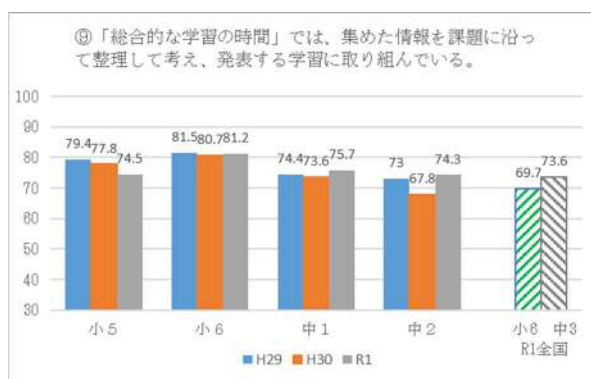
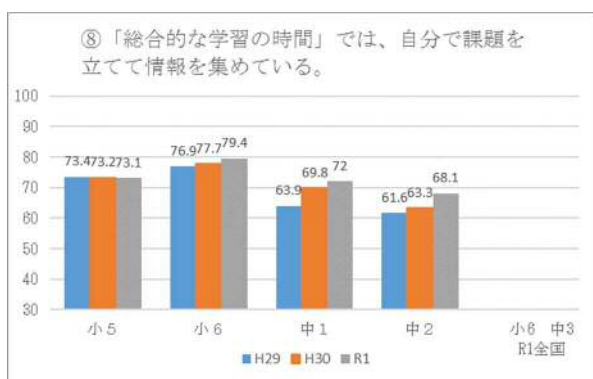
- 子どもたちに、各教科で学んだことが普段の生活で活用できないか考えたり、いろいろな方法で問題を解こうとしたりする意欲の高まりがみられる。
- 各教科で学んだことが地域や社会とつながっていることを認識し、子どもたちが学ぶ「意志」をもつことが重要である。授業で学んだことを、ほかの学習に生かそうとする意識が今後更に向上するよう授業改善を図っていく必要がある。



(2) 授業改善の状況

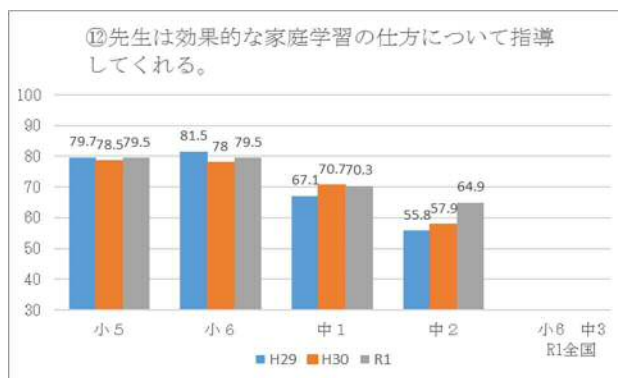
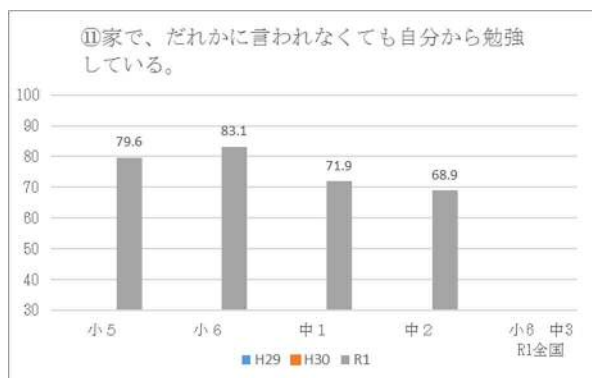
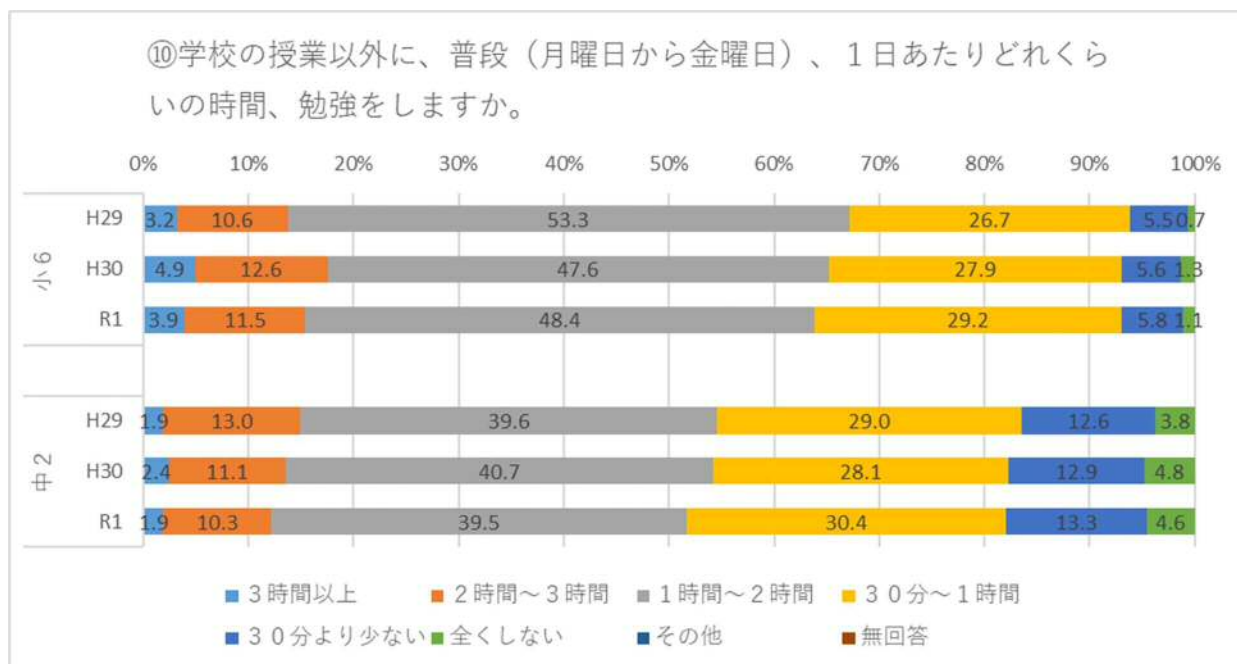
- 子どもたちに、各教科の授業において、問題を多方面から考え様々な解法を考えたり、公式やきまりをそのわけも含めて理解しようとしたりする意識の高まりがみられる。
- 子どもたちは、各教科において話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じており、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られていると考えられる。
- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとする「総合的な学習の時間」の充実を図るとともに、学校図書館の学習センター機能の更なる強化が重要である。

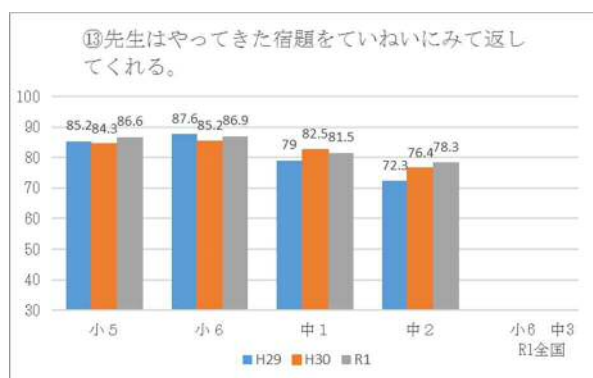




(3) 学習習慣

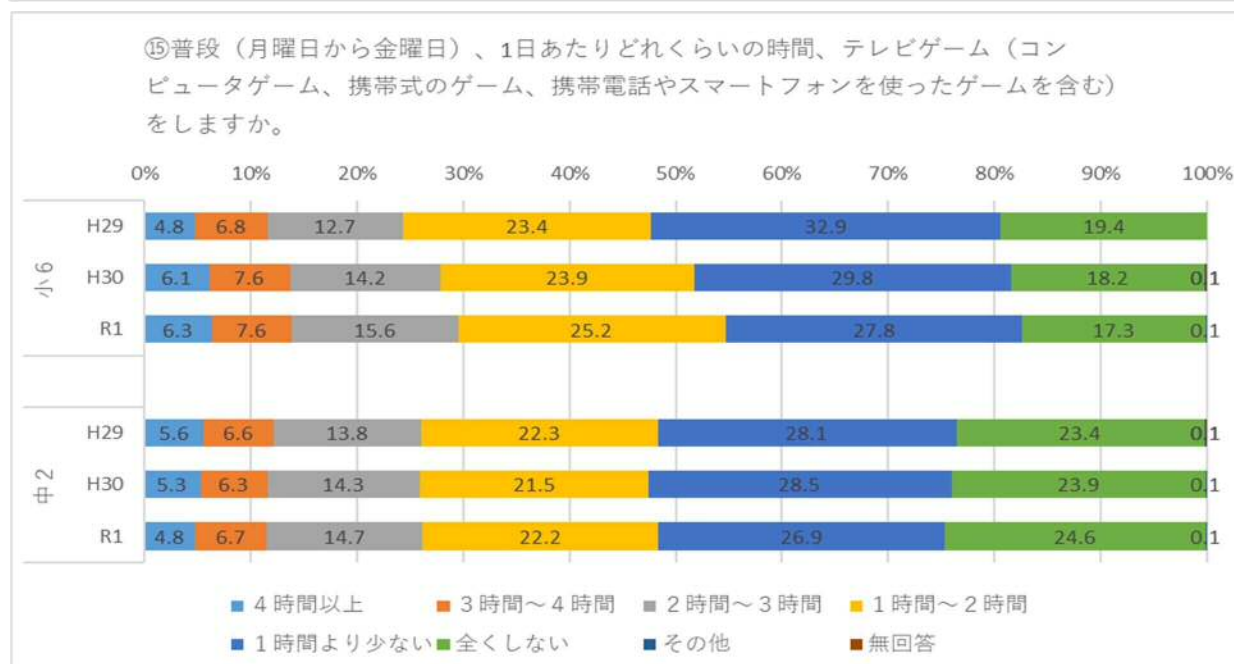
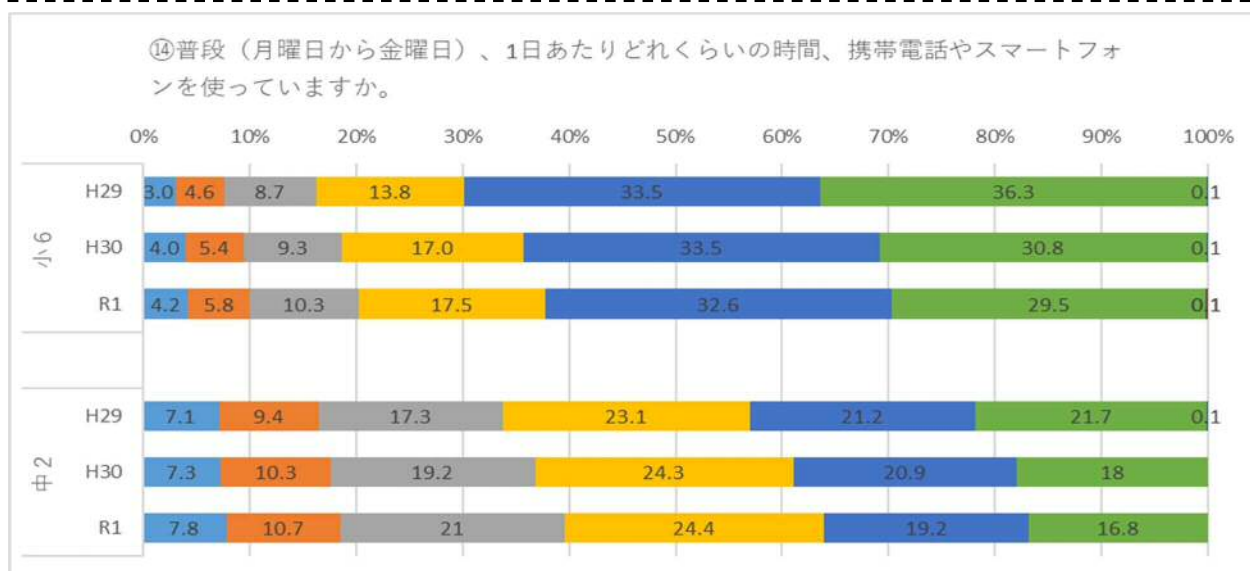
- 効果的な家庭学習の仕方を指導したり、宿題を丁寧に点検したりするなど、各学校の意識の高まりがみられる。
- 小6、中2の授業以外の平日（月曜日から金曜日）1日あたりの学習時間についてみると、年々時間が短くなっていることが大きな課題である。また、子どもたちが自ら学習に向かう姿勢についても課題がある。
- 授業と授業以外の学習（家庭学習）のつながりを意識した課題の提示等、各学校において工夫が望まれる。また、各教科・内容にあった家庭学習の仕方や学習内容の把握の仕方についても検討を加えていく必要がある。





(4) その他

○小6、中2の平日（月曜日から金曜日）1日あたりの携帯電話・スマートフォンの使用時間についてみると、年々時間が長くなっていることが大きな課題である。健康被害の面からも、各家庭において適切な使用法について話し合いをもったり、約束事を決めたりする必要がある。



IV. 今後の対応

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

新学習指導要領の円滑な実施に向け、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を更に推進する。

☞ 島根の子どもたちが、ふるさと島根に愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって挑戦し自らの人生と社会の未来を切り開いていけるよう、「生きる力」をつける必要がある。そのために、今学んでいることと地域や社会とのつながりが実感できる授業を展開し、一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と子どもたちが感じられる授業に改善していく。

1 すべての小・中学校を対象とした結果説明会を実施し、結果を生かして各学校が組織的な授業改善や個別指導を進めるように働きかける。

☞ 各学校の組織的な授業改善の取組や個別指導の充実をめざし、学力と学習状況の課題の改善状況、今後の取組についての共通理解を促すため、学力育成の中核を担っている教員を対象とした説明会を実施。

☞ 各学校において同一のチェックリストを活用した、継続的な授業改善の取組の促進。

2 「協調学習」による授業改善の推進

☞ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を更に推進するために、小・中・高等学校においてモデル校を指定し、連続性と系統性をもった学習の在り方について研究を進め、その研究成果を県内の学校に波及していく。

(令和2年度：各教育事務所管内の学校を対象にした授業公開を実施)

☞ 子どもたちが学ぶ「意志」をもった授業とするために、家庭学習が、定着のための反復練習だけでなく授業とつながる学習となるよう、課題の在り方についても研究を進めていく。

※ 協調学習

児童生徒一人一人が、自分のもつ知識・技能を活用して答えを追究しつつ、他者の異なる視点や考えを学ぶことで、自分の考えをより質の高いものにしていく学び。

3 課題に基づく今後の指導改善のポイントについて、次年度「各教科等の指導の重点」にまとめ、すべての小・中・高等学校等に配付し、徹底を図る。

4 家庭と連携し、主体的な家庭学習の取組を引き出す指導の充実を図る。

☞ 家庭学習が充実するよう、各学校への訪問指導などにより授業と家庭学習が一体化する授業の在り方について指導・助言する。